

先行経験が意思決定における後悔に及ぼす影響^{1) 2) 3)}

武田美亜

〔キーワード〕 意思決定, 現状維持効果, 現状変更効果, 意思決定の根拠, 後悔

問 題

意思決定と後悔

われわれは日々多くの意思決定を行なっている。コーヒーショップで何を注文するか, 恋人への誕生日プレゼントを何にするか, 何の仕事に就くか, 子を産むか否かなど, 日常の些細なものからその後の人生に関わる重大なものまで, さまざまである。いずれにしても, 人はできるだけ望ましい結果を得られるような意思決定を行なおうとする。従って意思決定の結果が望ましくないネガティブなものであったとき, すなわち意思決定に失敗したときには, 後悔などのネガティブ感情が生じる。

後悔とは, 現実にある状態と仮想の“そうであったかもしれない”状態を比較して現実にある状態が好ましくないと認識することで生じる不快な感情である (Sugden, 1985)。

現状維持効果と現状変更効果

意思決定の中には繰り返し行なわれるものもある。たとえば来年の手帳を今年と同じスタイルのものにするか, それとも使いやすいと評判の今年と異なるスタイルのものにしてみるか, 合宿先を昨年と同じ場所にするか, 違う場所にするかなどである。この場合の意思決定は, 前回と同じものを選ぶ (現状維持) か, それとも異なるものを選ぶ (現状変更) かを決める意思決定と捉えることができる。このような意思決定において, 人は以前と同じ意思決定, つまり現状維持をしようとする傾向があることが指摘されてきた (Samuelson & Zeckhauser, 1988)。さらに, その意思決定に失敗した場合の後悔の程度を検討した Landman (1987) は, 現状維持の結果失敗であった場合の方が現状変更の結果失敗であった場合よりも後悔が弱いという現状維持効果を示した。

これに対し Inman & Zeelenberg (2002) は, 現状を変更する方が正当であると知覚される場合には, 現状変更によって失敗した場合の方が現状維持によって失敗した場合よりも後悔が弱まると主張した。彼らは利用する航空会社や購入するバックパックの決定などを材料に, 先行経験がネガティブであり, 今回の意思決定の結果もネガティブであったときの後悔は, 現状変更した場合の方が現状維持した場合よりも弱いこと, すなわち現状変更効果が生じることを示した。この原因を, Inman & Zeelenberg (2002) は先行経験がネガティブであった場合には現状を変更する方が正当な意思決定だと知覚されるためと説明している。道家・村田 (2007)

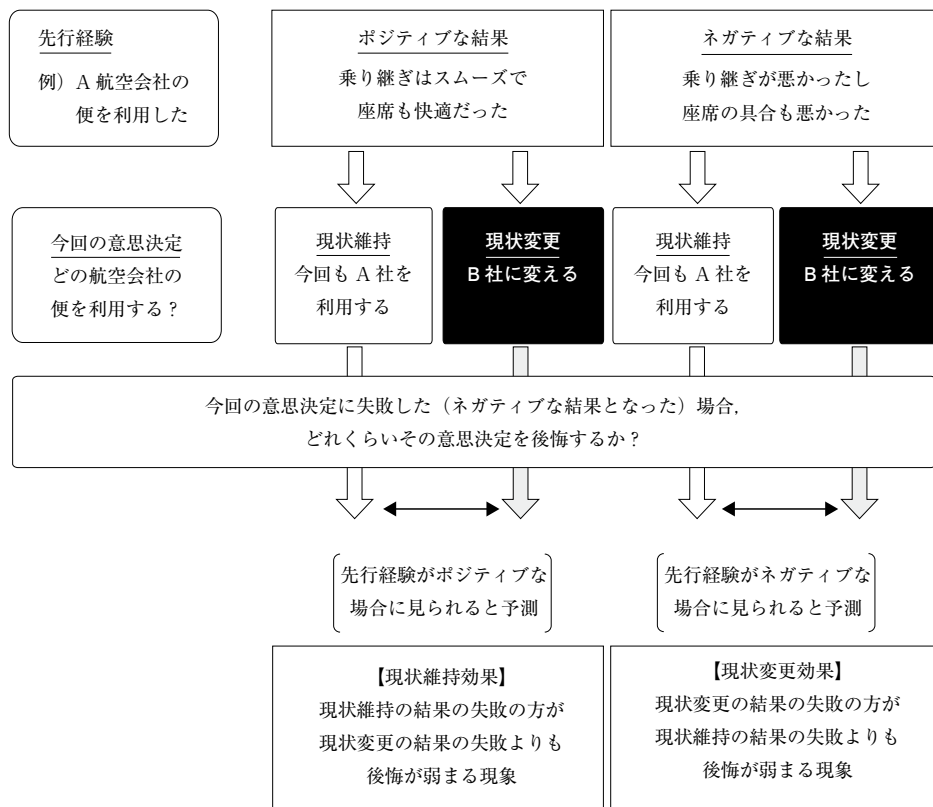


図1 現状維持効果と現状変更効果

も温泉旅館や購入するスニーカーの決定などを材料に、現状維持効果と現状変更効果を実証的に示した。先行経験（ポジティブか、ネガティブか）と意思決定（現状維持か、現状変更か）およびその結果生じる後悔の強さの関係は図1のように整理することができる。

現状維持効果および現状変更効果の強さに影響を与える要因

現状維持効果および現状変更効果の強さ（現状維持の結果失敗したときの後悔の強さと現状変更の結果失敗したときの後悔の強さの差）に影響を与える要因として、Inman & Zeelenberg (2002, Study 2) は、意思決定しようとしている製品またはサービスの利用歴を挙げている。利用歴が長い場合の方が短い場合よりも、現状維持の結果失敗した場合の後悔が弱まり、現状変更の結果失敗した場合の後悔が強まることを示した。言い換えると、利用歴が長い場合には現状維持効果は強まり、現状変更効果は弱まった。こうした影響が生じる原因として、特定の製品またはサービスの利用歴が長い場合にはその製品またはサービスの質に対する何らかの信念が形成されており、1回の意思決定経験で得られた知識が仮にこれまでの経験とは矛盾するような（ネガティブな）ものであっても、それまでに蓄積された信念に統合されてそのインパクトは弱められるからと説明されている。つまり、特定の製品またはサービスの

利用歴が現状に対するコミットメントを強め、現状維持した場合の後悔を弱めると言える。別の要因として、彼らは意思決定しようとしている製品またはサービスそのものに関する理由の強さを挙げている (Inman & Zeelenberg, 2002, Study 4)。意思決定が本質的な理由（たとえば航空会社の決定の場合、飛行時間が短いから）に基づくものであった場合の方が周延的な理由（たまたまその会社のチェックイン機がそこにあったから）に基づくものであった場合よりも、その意思決定をすることに対する正当性認知は強まり、その結果がネガティブなものであっても後悔は弱まると考えられる。また、道家・村田 (2007) は意思決定に対する責任の重さという要因の存在を指摘し、意思決定に対する責任が重い場合の方が軽い場合よりも現状変更効果が強まることを示した。

Inman & Zeelenberg (2002, Study 4) と道家・村田 (2007) は今回の意思決定に直接的に関わる性質の効果を検討している。その一方で、先の意思決定がどのようなになされたのか、先の意思決定の結果がなぜネガティブまたはポジティブだったのかという点にはこれまでほとんど言及されていない。Inman & Zeelenberg (2002, Study 2) は利用歴の効果を検討しているが、利用歴とは過去に現状維持を繰り返してきていることが前提となっており、1回のみの先の意思決定がどのようにしてなされたのかによる効果とは異なるものである。たとえば前回初めてある航空会社の便を利用し、今回の会社の便を利用するかを決める際、前回いろいろな会社を比較検討した結果その航空会社の便を利用すると決めた場合（本質的情報に基づく意思決定）と便を検索したらたまたまその会社の便が最初に見つかったのでそれを利用すると決めた場合（周延的情報に基づく意思決定）では、その後の意思決定（現状維持または現状変更）に対する認知が異なる可能性がある。そこで本研究では、現状維持効果および現状変更効果の強さに影響を与える要因として、先の意思決定の根拠の効果について検討する。

先の意思決定の根拠となる情報の違いは現状維持効果および現状変更効果にどのように影響すると考えられるであろうか。1つの可能性として、本質的情報に基づいて意思決定した場合の方がその意思決定に対するコミットメントは高くなると考えられる。すると今回の意思決定ではその結果に関わらず現状維持した場合の方が後悔が弱くなる。言い換えると、先の意思決定の根拠が本質的情報であった場合の方が現状維持効果は強く、現状変更効果は弱くなると予測される。2つめの可能性として、意思決定の根拠が本質的情報である場合の方が周延的情報である場合よりも、その意思決定に伴う責任感が強いことが考えられる。そうだとすれば、責任を伴う意思決定の結果がネガティブであった場合には現状を変更する方が正当だと認知されやすい。つまり、先の意思決定の根拠が本質的情報であった場合の方が周延的情報であった場合よりも現状変更効果が強まるという予測が可能である。

本研究の目的と仮説

本研究の目的は次の2点である。1. 先行研究とは異なる材料（化粧品のメーカー）を用いて現状維持効果と現状変更効果が生じるかを確認し、知見を一般化すること、2. 先の意思決定の根拠がどのようなものであったかによって、現状維持効果および現状変更効果が調整されるかを検討すること。

仮説は以下の通りである。1. 先行経験がポジティブであったならば、今回の意思決定で現状変更をした場合よりも現状維持をした場合の方が、その結果がネガティブであったときの後悔は弱いと推測されるであろう（現状維持効果）。2. 先行経験がネガティブであったならば、今回の意思決定では現状維持よりも現状変更をした場合の方が、その結果がネガティブであったときの後悔が弱いと推測されるであろう（現状変更効果）。3a. 先行経験が本質的情報に基づいて行なわれていた場合には周辺的情報に基づいて行なわれていた場合に比べて、その結果がポジティブかネガティブかに関わらず、今回の意思決定では現状維持をした場合の方が現状変更をした場合よりも後悔が弱いと推測されるであろう。すなわち、現状維持効果は強く、現状変更効果は弱くなるであろう。3b. 上記1, 2の効果は、先行経験の意思決定が周辺的情報に基づいて行なわれた場合よりも本質的情報に基づいて行なわれた場合の方が強いであろう。仮説3aと3bは対立仮説である。

方 法

実験参加者

都内私立女子短期大学で一般教養科目として心理学の授業を受講する学生84名。年齢記載のなかった2人を除いた82人の平均年齢は18.79歳（ $SD=0.58$ ）であった。

要因計画

実験は2（先行経験 [先の意思決定の結果]：ポジティブ・ネガティブ） $\times$ 2（情報 [先の意思決定で根拠とした情報]：本質的情報・周辺的情報） $\times$ 2（意思決定 [今回の意思決定]：現状維持・現状変更）の混合3要因計画（先行経験のみ繰り返し要因）とした。

実験材料

実験に用いた意思決定のシナリオは化粧品購入場面であった。マスカラ購入場面のシナリオを先行経験ネガティブ条件とし、リップグロス購入場面のシナリオを先行経験ポジティブ条件とした。

先の意思決定で根拠とした情報の内容は、独自に作成した。まず化粧品購入の根拠になりうる情報についての記述を作成した。この中には、実際の化粧品の広告のキャッチコピーなどを参考に、マスカラとリップグロスそれぞれの製品自体の性質に言及したもの（例：「まつ毛のダメージを補修・保湿する成分配合」「唇に立体感を与え、つややかな仕上がりを実現」など、マスカラ関連5項目、リップグロス関連3項目）と、製品自体の性質とは直接関連しないもの（例：「お店で1番目立つ場所に並べてあった」「友人が使っているところを見た」など8項目）が含まれていた。次に、短大生の女性7名を対象に予備調査を行ない、これら情報の説得力と製品購入時の重視度を評定させた。具体的には、各情報についてa)マスカラ（またはリップグロス）を購入する際のポイントとしてどのくらい説得力があると思うか、b) 回答者自身がマスカラ（またはリップグロス）を購入する際にどれくらい重視するかを7件法（説得力は1. 説得力が

ない～7. 説得力がある, 重視度は1. 重視しない～7. 重視する) で尋ねた。その結果, 2項目の評定値が最も高かった記述を各製品の本質的情報とし, 最も低かったもの2つを周辺的情報とした。

実際に提示したストーリーを以下に示す。先行経験の各条件とも, 前半の下線部が本質的情報条件, 角括弧内が周辺的情報条件の記述であり, 後半の下線部が現状維持条件, 角括弧内が現状変更条件の内容である。情報条件の操作に関わる記述の後ろの括弧内に, 予備調査での説得力と重視度の平均評定値を記した。

先行経験ネガティブ条件: コスメを集めることが大好きな水野さんは, マスカラを購入しに行きます。先日は, 汗, 皮脂, 涙に強いウォータープルーフという点が気に入った (説得力 $M=5.57$, $SD=1.62$; 重視度 $M=5.00$, $SD=2.38$) [お店で偶然目についた (説得力 $M=3.29$, $SD=1.25$; 重視度 $M=3.29$, $SD=1.60$)] マスカラを購入しました。しかし, 使っていくうちに自分には合わないと思いました。次に購入するマスカラは同じメーカーの新商品 [違うメーカー] のマスカラを購入しましたが, 使いづらく気に入りませんでした。

先行経験ポジティブ条件: おしゃれの大好きな鈴木さんは, たくさんの化粧品を持っています。4ヶ月前, 色持ち・ツヤ持ちに優れ, 美しい仕上がりが持続すると評判の (説得力 $M=6.57$, $SD=1.13$; 重視度 $M=6.43$, $SD=1.13$) [店頭に並べてあった (説得力 $M=3.29$, $SD=1.50$; 重視度 $M=3.29$, $SD=1.50$)] グロスを購入しました。その商品は使いやすく, デザインも好みで, とても満足しました。そして先日, 鈴木さんはまた同じメーカー [違うメーカー] の新商品のグロスを購入しましたが, この商品は以前購入したものよりも価格が高かったうえに, 持ち歩きづらかったため, 気に入りませんでした。

質問紙の構成

情報×意思決定の4条件で異なる冊子を作成した。どの条件(冊子)においても, 第1問に先行経験ネガティブ条件(マスカラ購入)のシナリオ, 第2問に先行経験ポジティブ条件(リップグロス購入)のシナリオを提示した。

それぞれのシナリオの直後に, 登場人物の気持ちを推測して答えるよう指示を与え, 5つの質問に9件法(1. 全然～9. 非常に)で回答させた。最初の4つは従属変数である後悔推測に関する項目であった。具体的には1) 今回の意思決定をどれくらい後悔していると思うか(直接的後悔推測), 2) もしやり直せるならば今回とは異なる意思決定をすると思うか(再選択時の変更可能性), 3) もし今回と異なる意思決定をしていたらどれくらい幸せだったと思うか(反実的幸福推測), 4) 今回の意思決定にどれくらいがっかりしていると思うか(落胆推測)を尋ねた。なお, 上記の「今回の意思決定」「今回とは異なる意思決定」という箇所は, 質問紙では条件に応じて「同じ(または違う)メーカーの商品を購入」と具体的な意思決定内容を記載した。最後の1つは操作チェック項目であり, 先の意思決定に対してどれくらい満足していたと思うかを尋ねた。

最後に化粧品に対する関与度を尋ねる16項目の質問(渡辺, 1992)に6件法(1. 全くあて

表1 後悔推測、操作チェック項目および化粧品関与度の条件別平均値（標準偏差）

	本質的情報		周辺的情報	
	現状維持	現状変更	現状維持	現状変更
1) 直接的後悔推測				
先行経験ネガ	7.07 (1.75)	5.50 (2.31)	6.87 (1.73)	6.50 (2.13)
先行経験ポジ	5.52 (2.01)	7.95 (1.50)	5.40 (1.92)	7.95 (1.17)
2) 再選択時の変更可能性				
先行経験ネガ	7.81 (2.20)	3.95 (2.50)	7.40 (1.84)	3.77 (2.60)
先行経験ポジ	4.30 (2.66)	6.90 (2.75)	4.60 (2.26)	8.09 (1.69)
3) 反実的幸福推測				
先行経験ネガ	5.44 (1.40)	4.75 (2.31)	6.07 (1.28)	4.86 (1.67)
先行経験ポジ	4.78 (1.22)	6.75 (2.55)	5.33 (0.98)	7.50 (1.60)
4) 落胆推測				
先行経験ネガ	7.19 (1.64)	6.25 (2.02)	6.53 (2.03)	6.68 (1.89)
先行経験ポジ	5.52 (1.89)	7.65 (1.95)	5.47 (1.69)	7.68 (1.70)
操作チェック				
先行経験ネガ	7.22 (1.58)	6.37 (2.43)	5.80 (1.61)	6.64 (1.73)
先行経験ポジ	8.07 (1.73)	8.05 (1.22)	8.27 (0.96)	7.77 (1.48)
化粧品関与度	63.04 (19.58)	67.47 (16.80)	56.62 (20.16)	67.24 (11.74)

はまらない～6. 非常によくあてはまる）で回答させた。

手続き

授業中に質問紙を一斉配布し、回答を求めた。回答前に、回答は無記名でプライバシーは守られること、回答するかどうかは個人の自由であること、回答の有無と授業の成績評価とは無関係であること、後に分析結果の報告をすることなどを説明した。

結 果

化粧品関与度、操作チェック項目および後悔推測の条件別の平均値を表1に示した。

化粧品関与度（個人差）

化粧品に対する関与度を尋ねた16項目の合計点を化粧品関与度とし、この値に対して2（情報：本質的情報・周辺的情報）×2（意思決定：現状維持・現状変更）の2要因分散分析を行なった（欠損値があったためデータ数は78。条件別のデータ数は本質的情報・現状維持条件25、本質的情報・現状変更条件19、周辺的情報・現状維持条件13、周辺的情報・現状変更条件21）。その結果、有意に近い意思決定の主効果が見られ（ $F_{(1,77)} = 3.53$, $p < .10$ ）、現状変更条件（ $M = 67.35$, $SD = 14.18$ ）の方が現状維持条件（ $M = 60.84$, $SD = 19.75$ ）よりも関与度が高い傾向が見られたが、情報の主効果および2要因の交互作用は有意ではなかった（ $F_s < 1$,

ns)⁴⁾。

操作チェック

操作チェック項目に対して、2（先行経験：ポジティブ・ネガティブ）×2（情報：本質的情報・周辺的情報）×2（意思決定：現状維持・現状変更）の3要因分散分析（先行経験のみ繰り返し要因）を行なったところ（欠損値があったためデータ数は83。条件別のデータ数は本質的情報・現状維持条件27，本質的情報・現状変更条件19，周辺的情報・現状維持条件15，周辺的情報・現状変更条件22），先行経験の主効果が有意であり（ $F_{(1,79)} = 39.05, p < .001$ ），ポジティブ条件（ $M = 8.02, SD = 1.42$ ）の方がネガティブ条件（ $M = 6.61, SD = 1.89$ ）よりも登場人物が先行経験に満足していると推測されていた。ただしこれは有意な3要因の交互作用によって調整されていた（ $F_{(1,79)} = 4.85, p < .05$ ）。先行経験がネガティブな場合，現状維持条件においては本質的情報条件の方が周辺的情報条件よりも先行経験に満足していると推測していたが（ $p < .01$ ），現状変更条件においては情報の効果は見られなかった（ns）。先行経験がポジティブな場合には，意思決定や情報による満足度の違いは見られなかった（ns）。その他に有意な効果は見られなかった（All $F_s < 1.23, ns$ ）。先行経験の主効果が有意であったことから，操作は概ね成功であったと言える。

後悔推測

後悔推測に関する4項目それぞれに対して、2（先行経験：ポジティブ・ネガティブ）×2（情報：本質的情報・周辺的情報）×2（意思決定：現状維持・現状変更）の3要因分散分析（先行経験のみ繰り返し要因）を行なった（条件別のデータ数は本質的情報・現状維持条件27，本質的情報・現状変更条件20，周辺的情報・現状維持条件15，周辺的情報・現状変更条件22）。

1) 直接的後悔推測においては意思決定の主効果が有意であり（ $F_{(1,80)} = 6.32, p < .05$ ），現状維持条件（ $M = 6.24, SD = 1.99$ ）の方が現状変更条件（ $M = 6.99, SD = 2.07$ ）よりも弱い後悔が推測されていたが，これは有意な先行経験×意思決定の交互作用によって調整されていた（ $F_{(1,80)} = 38.33, p < .001$ ）。先行経験がネガティブな場合には現状変更条件の方が現状維持条件よりも弱い後悔が推測され（ $p < .05$ ），現状変更効果が見られた。一方先行経験がポジティブな場合には現状維持条件の方が現状変更条件よりも弱い後悔が推測されており（ $p < .001$ ），現状維持効果が見られた（図2）。情報の効果を含むその他の効果はいずれも有意ではなかった（All $F_s < 1.21, ns$ ）

2) 再選択時の変更可能性においては先行経験×意思決定の交互作用のみが有意であった（ $F_{(1,80)} = 74.09, p < .001$ ）。先行経験がネガティブな場合には現状変更条件の方が現状維持条件よりも弱い後悔が推測され（ $p < .001$ ），先行経験がポジティブな場合には現状維持条件の方が現状変更条件よりも弱い後悔が推測されていた（ $p < .001$ ）。すなわち現状変更効果と現状維持効果が見られた（図3）。情報の効果を含むその他の効果はいずれも有意ではなかった（All $F_s < 1.75, ns$ ）

3) 反実的幸福推測においては先行経験の主効果が有意であり（ $F_{(1,80)} = 14.02, p < .001$ ），

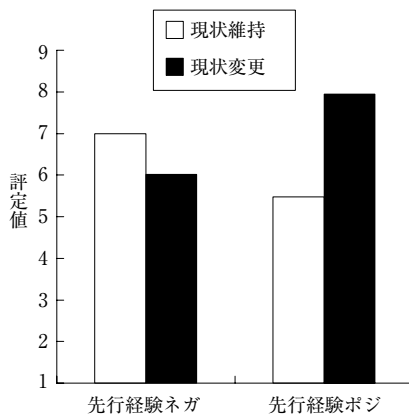


図2 直接的後悔

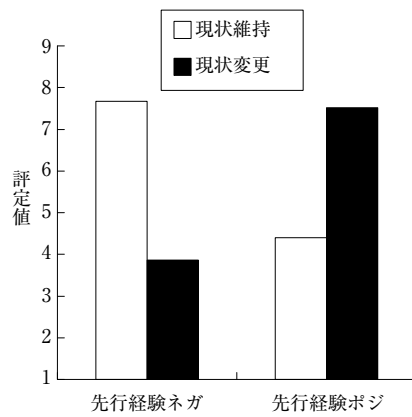


図3 再選択時の変更可能性

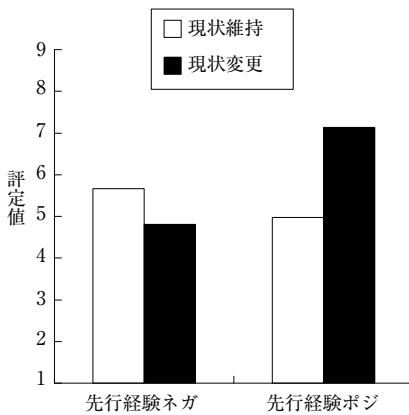


図4 反実的幸福推測

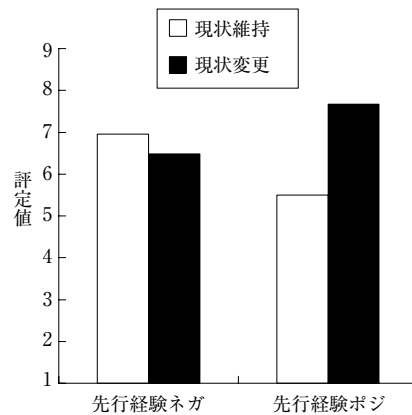


図5 反実的幸福推測

ネガティブ条件 ($M=5.24$, $SD=1.75$) の方がポジティブ条件 ($M=6.06$, $SD=2.01$) よりも弱い後悔が推測されていた。また、有意に近い意思決定の主効果も見られ ($F_{(1,80)} = 3.22$, $p < .10$)、現状維持条件 ($M=5.32$, $SD=1.31$) の方が現状変更条件 ($M=5.98$, $SD=2.35$) よりも弱い後悔が推測される傾向が見られた。ただしこれらは有意な先行経験×意思決定の交互作用によって調整されていた ($F_{(1,80)} = 48.79$, $p < .001$)。先行経験がネガティブな場合には現状変更条件の方が現状維持条件よりも弱い後悔が推測され ($p < .05$)、先行経験がポジティブな場合には現状維持条件の方が現状変更条件よりも弱い後悔が推測されていた ($p < .001$)。すなわち現状変更効果と現状維持効果が見られた(図4)。その他の効果はいずれも有意ではなかった(All $F_s < 1$, ns)。

4) 落胆推測においては意思決定の主効果が見られ ($F_{(1,80)} = 6.91$, $p < .05$)、現状維持条件 ($M=6.23$, $SD=1.93$) の方が現状変更条件 ($M=7.07$, $SD=1.96$) よりも弱い後悔が推測されていた。ただしこれは有意な先行経験×意思決定の交互作用によって調整されていた ($F_{(1,80)} = 29.76$, $p < .001$)。先行経験がネガティブな場合には現状維持条件の方が現状変更条件

よりも強い落胆が推測されていたが ($p < .005$), 先行経験がポジティブな場合には意思決定による落胆の推測に違いは見られなかった ($p < .001$) すなわち現状維持効果のみが見られた (図5)。その他の効果はいずれも有意ではなかった (All F s < 1 , ns)。

考 察

本研究では化粧品購入という意思決定場面を材料として、現状維持効果および現状変更効果が見られるかを検討した。また、先の意思決定の根拠となる情報の質が現状維持効果および現状変更効果に及ぼす影響を検討した。その結果、仮説1, 2は支持され、先行研究(道家・村田, 2007; Inman & Zeelenberg, 2002)と一致した知見が得られた。今回の意思決定がネガティブであるとき、先行経験がポジティブであったならば、現状維持した場合の方が現状変更した場合よりも後悔は弱かった。すなわち現状維持効果が見られた。一方、先行経験がネガティブであったならば、現状変更した場合の方が現状維持した場合よりも後悔は弱かった。すなわち現状変更効果が見られた。以上の結果は直接的な後悔推測だけでなく、間接的な後悔推測においても概ね見られた。本研究の結果によって先行研究の知見が補強された。

先の意思決定の根拠に関する効果は見られず、仮説3a, 3bはどちらも支持されなかった。この原因として、実験材料および操作にいくつか問題があったと考えられる。1つめは、本質的情報と周辺的情報がそれぞれ参加者に本質的、周辺のと知覚されていなかった可能性がある点である。各条件の情報の内容は予備調査で決定したが、個々の情報を単独で提示してこうした情報を化粧品購入の際に重視するかと尋ねた場合と、その情報を根拠に購入する化粧品を決めたというストーリーの中で提示した場合とでは、情報の質の知覚のされ方が異なっていたかもしれない。たとえば周辺的情報に関して、化粧品購入の際に最初から「店頭においてあること」を条件に商品を探すことはないが、「店頭においてあったものを購入した」と、それを根拠に購入したというストーリーを提示されると、記述内容を超えて本質的情報が推測されていた可能性がある。たとえば人気があるから店頭においてあったのであり、人気があるということは実際に質もある程度良いのだろうと解釈されていたかもしれない。本研究では参加者がストーリーを読んだときにこれらの情報をどう評価していたのか確認していないため、今回の結果について結論を述べることはできない。今後検討する際にストーリーの中でこれら情報を受け取った場合にどのように評価されているのかを確認する必要がある。2つめは、先の意思決定の根拠とその結果が対応していなかった点である。先行経験ポジティブ条件において、本質的情報の内容はリップグロスのつきの良さに関するものであるのに、その意思決定の結果がポジティブだった理由としては使いやすさ、デザインの良さが挙げられており、意思決定の決め手となった点とは異なっている。従って、今回の意思決定の際に、先行経験の意思決定の決め手による影響が出にくかった可能性がある。

化粧品の購入は参加者にとってある程度関与度の高い内容であったが、質問紙による場面想定法では先の意思決定の根拠となる情報を参加者が充分に考慮できなかった可能性がある。実験室実験を行なうなど意思決定に対する参加者の自我関与を高めることや、意思決定の内容と

して本質的情報を熟考することが必要なものを用いるなど、意思決定の根拠の違いが明確に見られるような材料を用いることが必要かもしれない。

本研究では先の意思決定の根拠による効果は見られなかったが、現実には先行経験がどのような経緯で行なわれたのかなどの情報が今回の意思決定に対する後悔に影響を及ぼす場合もある。先行経験がポジティブであったのかネガティブであったのか、現状を維持したか変更したのかなどの個々の要因の特定に加え、これら要因がどのように影響を及ぼしあっているかを整理することが必要である。

引用文献

- 道家瑠見子・村田光二(2007). 意思決定における後悔：現状維持が後悔を生むとき 社会心理学研究, 23, 104-110.
- Inman, J. J. & Zeelenberg, M. (2002). Regret in repeat purchase versus switching decisions: The attenuating role of decision justifiability. *Journal of Consumer Research*, 29, 116-128.
- Landman, J. (1987). Regret and elation following action and inaction. *Personality and Social Psychology Bulletin*, 13, 524-536.
- Samuelson, W. & Zeckhauser, R. (1988). Status quo bias in decision making. *Journal of Risk and Uncertainty*, 1, 7-59.
- Sugden, R. (1985). Regret, Recrimination and rationality. *Theory and Decision*, 19, 77-99.
- 渡辺聡 (1992). 商品に対する関与と商品購買時の情報探索におけるくちコミの利用との関係 社会心理学研究, 7, 172-179.

注

- 1) 本研究の実施にあたり、道家瑠見子先生（亜細亜大学短期大学部）、山田歩先生（青山学院大学ヒューマン・イノベーション研究センター）にご協力いただきました。記して感謝申し上げます。
- 2) 本研究は小野葉月さん、齋藤恵理さん（平成21年度青山学院女子短期大学卒業生）が著者の指導の下行なった卒業研究のデータを再分析したものである。
- 3) 本研究の一部は、日本社会心理学会第51回大会（2010年9月、於広島大学）にて発表された。
- 4) 念のため、化粧品関与度の高低を条件に入れた分析を行なった。化粧品関与度の中央値で参加者を化粧品関与度高群（69点以上）と低条件（67点以下）に分け、4つの後悔指標それぞれに対して2（先行経験：ポジティブ・ネガティブ）×2（情報：本質的情報・周辺的情報）×2（意思決定：現状維持・現状変更）×2（化粧品関与度：高・低）の4要因分散分析（先行経験のみ繰り返し要因）を行なったが、化粧品関与度に関わる効果はいずれも有意ではなかった。

Summary

The Effects of Prior Experience on Regret in Decision-Making

TAKEDA Mia

This research aimed at replication of the status quo effect and reversal of the status quo effect with scenarios other than those used in prior studies. Another aim was to examine the effect of the reason for prior decision-making on the status quo effect and the reversal of the status quo effect. Eighty-four female participants read scenarios that described the purchase of cosmetics. In the scenarios, the reason for prior decision-making (substantial reason or peripheral reason), outcome of prior decision-making (positive or negative), and subsequent decision-making (repeating choice or switching choice) were manipulated. Participants inferred the regret that the decision-maker would have felt when the outcome of the decision-making was negative. As predicted, the status quo effect appeared when the prior experience was positive, and a reversal of the status quo effect appeared when the prior experience was negative. The effect of the reason for the prior decision-making was not found. Implications and limitations of this research were discussed.

Key words: decision-making, status quo effect, reversal of status quo effect, reason for decision-making, regret

青山學院女子短期大學

紀 要

第六十四輯

平成22年12月 刊

JOURNAL
OF
AOYAMA GAKUIN
WOMEN'S JUNIOR COLLEGE

NO. 64

DECEMBER, 2010

目次

脳死・臓器移植をめぐる公共的議論と法の役割

.....河見 誠.....1

詞的情景論・(1)——「海辺の別れ」という詞場——

ミュージシャンを読むためのストラテジとしての詞作品研究の課題

.....おかざきかずお.....1

個人語彙規模の測定に関する一考察

.....高野 嘉明.....9

EFL Wordlists: The Need for a Modern Learner Lexicon

.....Joseph Phillips.....27

女子短期大学生の環境意識

.....梅澤香代子、宮川香織、廣田道夫.....37

日清戦争開戦前夜の思想状況

——金玉均暗殺事件をめぐる一考察——

.....小林瑞乃.....45

バイオ燃料に関するアメリカの動向について

.....信澤久美子.....65

英国産業連盟と1920年代不況

——デフレーションと構造調整——

.....秋富創.....77

身体毀損の噂に見る社会の表象

.....渡辺良智.....93

先行経験が意思決定における後悔に及ぼす影響

.....武田美亜.....111

現代ロシア社会における子どもの養育をめぐる諸問題

..... 村 知 稔 123

習得の時短のための救急蘇生法トレーニング・プログラムの構造解析

..... 渡 部 かなえ 141

ピースメーカーキングとキリスト教

..... シェロ マイク 151

フォーマル・スキーマとしての5文型と英文理解

..... 黒 岩 裕 159

食事場面での母親の行動認識と、感情対処方略としての食行動が、

摂食障害傾向に及ぼす影響

..... 田 中 志 帆 169

青山学院女子短期大学研究成果一覧 187

CONTENTS

OKAZAKI Kazuo	
On the Poetical Background of Popular Song	1
 TAKANO Yoshiaki	
A Note on the Measurement of Personal Vocabulary Size	9
 Joseph Phillips	
EFL Wordlists: The Need for a Modern Learner Lexicon	27
 UMEZAWA Kayoko, MIYAGAWA Kaori, HIROTA Michio	
Study of Ecological Awareness of Women's Junior College Students	37
 KOBAYASHI Mizuno	
The Logic Behind a Justification of the Sino-Japanese War	
—An analysis of Japanese newspaper claims over the assassination of the Korean	
reform politician Kim Okgyun—	45
 NOBUSAWA Kumiko	
Biofuel Problems in the U.S.	65
 AKITOMI Hajime	
The Federation of British Industries and the Depression in the 1920s:	
—Deflation and Structural Adjustment—	77
 WATANABE Yoshitomo	
Images of Society Seen through Body-parts Rumors	93
 TAKEDA Mia	
The Effects of Prior Experience on Regret in Decision-Making	111

MURACHI Toshimi	
The Problems Surrounding the Upbringing of Infants and Children in Contemporary Russia	123
WATANABE Kanae	
An Efficient Program for Basic Life Support Training Designed to Shorten the Time for Mastery	141
Mike Sherrill	
Peacemaking and Christianity	151
KUROIWA Yutaka	
Reading Comprehension and Five Sentence Patterns as a Formal Schema	159
TANAKA Shiho	
The Influences of Mother-Child Mealtime Interaction during Childhood, and Emotional Eating on Eating Problems among under Graduate Women	169
~~~~~	
KAWAMI Makoto	
Public Discourse on Brain Death and Organ Transplantation: the Role of Law .....	1

編集委員

宮田雅智 中井章子

藤本勝義 大野芳材

池田孝一 浅見均

石井孝彦

執筆者（五十音順）

秋富 創 准教授

岡崎和夫 教授

河見 誠 教授

黒岩 裕 准教授

小林瑞乃 専任講師

シエロマイク 准教授

高野嘉明 教授

武田美亜 専任講師

田中志帆 准教授

信澤久美子 准教授

※廣田道夫 教授

Phillips, Joseph 准教授

村知稔三 教授

渡部かなえ 教授

渡辺良智 教授

※梅澤香代子（本学非常勤講師）

※宮川香織（本学家政学科副手）

※印は共同執筆者

平成二十二年十二月十日発行

青山学院女子  
短期大学紀要 第六十四輯

編集  
発行

青山学院女子短期大学  
東京都渋谷区渋谷四ノ四ノ二五

印刷 丸善株式会社